

Fastly + Wovn Technologies株式会社

CDN やエッジコンピューティング、 WAF など体験価値を高める環境整備に貢献 イージーインテグレーションに 欠かせない Fastly ソリューション

Webサイトの多言語化ソリューションを快適に活用してもらうために、コンテンツを高速に配信する Fastly CDN や分散アプリケーションをエッジで構築できる Compute@Edge、高度なセキュリティを実装可能な Fastly Next-Gen WAF を採用している。

ページ処理や費用面で課題のあった CDN の刷新を計画

「インターネット空間をローカライズする世界的な黒子企業になる」ことをビジョンに据え、2014年に誕生した Wovn Technologies株式会社。翻訳資産の一元管理から運用までを支援する Webサイト多言語化ソリューション「WOVN.io」や SDK を活用することでネイティブアプリの翻訳多言語化が容易になるアプリ多言語化ソリューション「WOVN.app」を展開しており、WOVN.io を利用する Webサイトは18,000を越え、1,500万超の翻訳ページ数を誇っている。「お客様の体験価値を高めたいけるよう、イージーインテグレーションを掲げて機能強化を図っており、Webサイトを簡単に多言語対応していけるようなプロダクトを目指しています」と小川 悠介氏は説明する。

そんな同社が提供している WOVN.io では、顧客が提供する Webサイト上に埋め込まれたスクリプトが様々な処理を行っている。そのなかでも、WOVN.io が作成した翻訳コンテンツの取得、Webブラウザ上で最適な言語に置換する処理を行う部分はユーザ体験に直結している。WOVN.io のサービス基盤から、翻訳コンテンツを取得する部分のレスポンス速度向上のため、他社が提供する CDN サービスを以前は利用していた。

しかし、Webサイトの情報を WOVN.io が翻訳を更新した段階で、その結果を顧客の Webサイトへ迅速に反映させたいものの、既存の CDN サービスの場合、翻訳データのキャッシュがパージされるまでに時間がかかるケースがあり、長い時には30分以上かかってしまうこともあった。また、ページに対してある一定回数を超えると課金が発生するなど、持続的に活用できる環境とは言い難かったという。「持続的に利用できることはもちろん、お客様が望むスピードで翻訳データが更新できない状況が続いている状況を解消していくための方策が必要だと考えたのです」と小川氏。



社名: Wovn Technologies株式会社

「世界中の人が、すべてのデータに、母国語でアクセスできるようにする」をミッションに掲げ、Webサイト多言語化ソリューション「WOVN.io」を展開。利用 Webサイトは18,000を越え、1,500万超の翻訳ページ数を誇っている。他にも、ネイティブアプリの翻訳多言語化が容易になるアプリ多言語化ソリューション「WOVN.app」を提供。

住所: 〒107-0062

東京都港区南青山2-26-1 D-LIFEPLACE南青山9F

URL: <https://mx.wovn.io/>

fastly®



Security



Compute



Network Services

高速なページ処理が魅力の Fastly CDN、エッジコンピューティングや WAF も活用

そこで選択されたのが、当時日本での展開が始まっていた Fastly CDN だった。変更後のページ処理が迅速で、かつページの回数によって課金が発生しないなど、従来の課題を解決できることを高く評価したという。「実際に試したうえで効果を確認し、すぐに切り替えることにしました。副次的な効果として、キャッシュページのためのキーを詳細に設定できるサロゲートキーにてページできる点も、サービスを提供する側としてとてもありがたかったです」と小川氏。結果として2016年から Fastly CDN を活用し、高速なページ処理で最適な顧客体験を提供することに成功する。

また、イージーインテグレーション実現に向けて新たな環境づくりを目指す過程で注目したのが、Fastly の Compute@Edge だった。もともと WOVN.io は、顧客の Web サーバーにライブラリを導入する方式も提供していたが、顧客環境へのライブラリ実装や顧客側に環境があることに起因したトラブルシューティングの煩雑さなどから、新たにエッジ側で顧客の Web サイトのように振る舞い、翻訳処理が可能になるプロキシ方式というサービス提供方式の検討を開始した。「レスポンスボディを更新でき、メモリや CPU などのリソース制限が他ソリューションに比べて比較的緩やかであった Compute@Edge がうまく我々の求めている環境にはまったのです」と小川氏は評価する。

セキュアな環境づくりに向けては、以前は CDN 側では Fastly の WAF を、WOVN.io の管理画面などへのアクセスは他社の WAF を利用していたが、2系統に分かれていることでブロックの事由確認やルールのチューニングなどの運用が煩雑だったことから、Fastly の Next-Gen WAF に統合することを決断。1つの管理画面にて制御でき、その検知精度が既存の WAF よりも高い点を評価した。

アクセス制御の拡張とともにエッジコンピューティングの活用幅を広げたい

今後は、例えば社内のインターナルサイトを翻訳する際に、IPアドレス以外でアクセス制御できる環境が望まれているため、新たな環境づくりを進めていきたいという。「社内だけに公開したいコンテンツを翻訳する際に、IPアドレスだけだと制御できない場面も出てきています。OAuth や証明書ベースのアクセスなどで制御できるような環境づくりの検証も進めていきたい」と小川氏。Compute@Edge にて顧客が契約する ID プロバイダとの連携機能を持たせるなど、将来的な機能エンハンスで対応を考えているという。

Compute@Edge については、プロキシ方式で得られた知見を活用し、HTML の中身を翻訳するためのエンドポイントとして、さらなる活用が期待されている。「現在、別のサービス基盤上で動いている HTML の翻訳処理がさほど複雑ではないため、Compute@Edge 側に処理を移し替えていくことで、ライブラリを導入する方式でもプロキシ方式でもレスポンス速度の向上が期待でき、より良いユーザの体験を提供できます。さらなる快適な顧客体験につながるプロダクトの強化を進めたい」と小川氏。他にも、Next-Gen WAF を拡張していくことでさらにセキュアな環境づくりを強化するなど、Fastly のさらなる活用について期待を寄せていると今後について語っていただいた。



IT Office,
Cloud Platform Team
小川 悠介氏

お問い合わせ



✉ japan@fastly.com

🐦 [@FastlyJapan](https://twitter.com/FastlyJapan)

🌐 www.fastly.com/jp

📘 [@FastlyEdgeCloudJapan](https://www.facebook.com/FastlyEdgeCloudJapan)

WOVN.io

fastly



© 2023 Fastly, Inc. All Rights Reserved